

平成 21 年度 大学職員情報化研究講習会（基礎講習コース）

「4 年 6 ヶ月の実り～情報を使った人と組織のイノベーション～」

課題認識

課題テーマの設定において、グループのメンバーのバック・グラウンドが情報系、教学系、学生支援系など様々であったため、最初にテーマ設定のためのブレイン・ストーミングにより、各自（大学）が抱えている課題を洗い出し、共通点を抽出した。その結果、最近の学生の傾向として、掲示板をきちんと確認しない、窓口に来て用件を言えない（コミュニケーション能力の不足）、大学を 4 年間で卒業できない、就職が決まらないなどの学生の質の低下についての問題点（課題）が浮上した。

討議内容

討議では、前述のような課題を解決するため、ICT 技術を「ツール」として使用し、学生の支援のために人と組織を変革して、社会へ学生を送り出すという流れを考えた。はじめに、入学前の段階から卒業に至るまでの年次を追った支援を構想し、それに対して PDCA のサイクルと、プロセスに農作のイメージを取り入れた。

PDCA のサイクル

P・・・耕す（組織・職員・環境・ビジョン）

D・・・育てる（学生とのかかわり）

C・・・実る（アウトプット）

A・・・出荷（社会からの評価）

<入学前～卒業までの支援内容>

入学前 入学前教育の実施（e-learning、小論文など）

⇒入学前と入学後のギャップを埋める、大学生活に慣れる

1 年次 ピア・サポーターによる学生支援、事務局誘導

⇒大学生活に慣れる、コミュニケーション能力養成

3 年次 キャリア支援の一環として自己の成長を記録させる

⇒キャリアの蓄積、文章力の養成

4 年次 キャリア講座の開講、OB/OG を就職アドバイザーとして活用

⇒就職力養成、卒業生とのリレーションシップ構築

「情報」を媒介した支援のイメージ図



提案内容

課題解決のための具体的な方策として、SNS を使ったコミュニティを形成し、学生の支援を行うことを提案した。SNS で解決できる問題点と解決策を下記の表にまとめる。

問題点	解決策
4 年生：卒業、就職できない	卒業生からのアドバイス
3 年生：進路決定、就職	成長記録をつける
2 年生：中だるみ	イベント等 学生主体の行事への呼びかけ
1 年生：生活、履修、友人関係	生活情報を掲載、情報交換、クラブのコミュニティ、休講情報、呼び出し、教員からのアドバイス

また、これにより考えられるメリット、デメリットとその解決法を下記に挙げる。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・気軽 ・内気な人でも参加しやすい ・成長記録をつけることにより、自己の成長が「見える化」できる ・成果に対する評価が「見える化」されるため、モチベーション向上につながる ・うまく利用すれば絆が生まれ、リレーションシップの強化が可能 ・学生と教職員の交流により教職協働が実現可能 ・忙しい人も参加できる ・目標の共有化により、ゴールの明確化、価値の共有が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・対人コミュニケーションの機会が減る可能性が心配される ・プライバシーの問題 ・個人攻撃、「炎上」のおそれがある ・継続利用につながるか懸念がある ・システムの不具合についての対応

<デメリットの解決策>

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| ●興味のない人に対して | メリットを前面に打ち出す、楽しいものであると認識させる等 |
| ●個人攻撃などの問題 | 罰則付きの規約を作る、学生間でのみ匿名性を与える等 |
| ●不登校の可能性 | 企画やイベントの参加を促し、対人コミュニケーションを深める |
| ●継続利用について | 役立つ、必要な情報を逐次掲載し、内容に新規性を持たせる |
| ●システムの不具合 | メンテナンス、掲示による告知を漏れなく行う |

まとめ

以上のような、SNS を使った学生支援を通して、学生や教職員の意識の転換、学生の自立＝自己実現を支援して社会へ送り出す（＝「出荷」のイメージ）。社会へ送り出した後は、PDCA のサイクルに基づき、社会からのフィードバックを反映させる。

SNS という情報ツールを使って、社会人基礎能力をつけた学生を養成することをゴールとしているが、あわせて、これまでの「人」と「組織」あり方を変革することも狙いとしている。暗黙知を見える化し、教職協働で学生を支援することにより、大学組織全体の教育の質とパフォーマンスを上げ、職員が「天職」と思えるような組織風土の醸成も効果として期待されるものと考えている。

この点が私たちの「人と組織のイノベーション」のタイトルの由来である。



SNS を介したリレーションのイメージ図